

令和8年度 新任研修(記念講演・前期・経験者)を実施しました

新任研修(記念講演)

4月8日(水)に、令和8年度の新任研修(記念講演)を大田区総合体育館にて実施し、新規採用職員2098名が参加しました。はじめに、特別区長会会長の吉住一 新宿区長から「自治体職員の持つ可能性」というテーマでご講演いただきました。

まず、聖徳太子の十七条の憲法を絡め、周囲との和やつながり、相談することの大切さについてお話しいただきました。また、ご自身の経験を踏まえながら「皆さんの発案でまちのあり方、社会のあり方自体が変化をしていく、そういう大きな仕事ができるのが、公務員の醍醐味である。」と、特別区の職員の持つ、組織を発展させる、まちのあり方自体を変えていく大きな可能性についてご講演いただきました。



【講演】特別区長会会長
吉住 健一 新宿区長

次の講演では、ジャーナリストの室橋裕和講師から「取材現場から見た外国人と日本社会へ人生と制度のはざまにある実情」とい

うテーマでご講演をいただきました。

室橋講師からは、ご自身の取材現場での経験などから、「デマや偏見に惑わされず、外国人について正しく知り、今後の多文化共生の社会づくりの最前線を担ってほしい、とメッセージをいただきました。その後のオンラインによる質問コーナーでは研修生から多くの質問が寄せられ、困難に直面した時にどのように向き合っていけばよいかとの質問には、「周りに相談できる人を作っておくこと、そういう人との会話が困難を乗り越えるヒントになるかもしれない。あとは、やはり自分の力。覚悟を決めてめげずに頑張ってください。」と、大変貴重なご示唆をいただきました。



【講演】ジャーナリスト
室橋 裕和 講師

研修生からは、「大きな視点で物事を考える姿勢を持ち、自分の業務が地域全体にどのような影響を与えているのかを意識しながら、主体的に行動できる職員へと成長していきたい。」「主体的にコミュニケーションをとっていき、

だれにとっても暮らしやすい特別区を作っていけるよう、周囲と連携・協力していきたい。」といった感想がありました。

新任研修(前期・経験者)

4月7日から5月8日にかけて新任研修(前期・経験者)を実施しました。4月7日～4月28日の期間中に、3日間を単位として、新任研修(前期)を5回実施し、4月30日～5月8日の期間中に、2日間を単位として、経験者採用職員を対象とした新任研修(経験者)を2回実施しました。

この研修では、特別区職員としての知識の習得と意識の確立を図ることを目的として、組織や仕事の進め方の基礎知識、地方自治の仕組みや特別区制度、公務員倫理や人権問題について、講義や事例演習、班討議等を交え実施しました。

各科目の講師として、各区・一部事務組合の職員延べ209名の方々に登壇していただき、講師自身の新任職員時代の体験談や、これまでの職務上の実体験を交えて講義を行っていただきました。研修生は、活気に満ち溢れた様子で討議・意見交換を行い、特別区の職員に求められる基礎知識を得るとともに、区を越えた仲間作りができたようです。

研修生からは、「仕事をする上では、常に目標・目的を考えて行動することが大切だと学んだ。」「特別区と行政区の役割や業務の

違いについて学び、自分が属する特別区についてより理解を深めることができた。」「不適切な行動や対応が住民からの信頼を損なうことに繋がるため、一つひとつの行動に責任を持つことの重要性を改めて認識した。」といった感想がありました。



【新任研修(前期)】班討議の様子

研修所からのメッセージ

新任研修を実施するにあたり、講師としてご登壇いただいた各区・一部事務組合の皆様及び研修担当の皆様は、多大なるご協力をいただきました誠にありがとうございます。

研修生のみなさんへ。新任研修を通して、新しい仲間と出会えたことは貴重な財産になったと思います。この研修で学んだことや得たものが、これからの公務員生活の一助になれば幸いです。みなさんの今後のご活躍を心より応援しております。

(特別区職員研修所)